

平成22年9月24日
調査・設計等分野における品質確保に関する懇談会
(平成22年度 第1回)

調査・設計等業務における 総合評価落札方式の実施状況 (平成21年度年次報告(暫定版))



年次報告(暫定版)の作成の目的

本年次報告(暫定版)は、国土交通省における総合評価落札方式の現況をとりまとめ、公表することにより、同方式の普及・拡大、ダンピング防止策、入札契約制度に関する諸課題への確実な対応に資することを目的として作成するものである。

※ 今回は全数データの集計が未確定のため、分析等については暫定的なものとして次回懇談会までに確定させる予定である。

目次

1. 平成21年度 年次報告(暫定版)のポイント	p.1
2. 総合評価落札方式の実施状況	p.4
2-1. 全契約状況	p.5
2-2. 総合評価落札方式による契約状況	p.6
2-3. 落札者の状況	p.7
2-4. 落札率の分布状況	p.10
2-5. 調査・設計分野における低入札発生状況	p.13
2-6. 落札者と評価値が2位、3位の技術点分布	p.16
2-7. 調達方式、配点比率と業務成績の関係	p.17

1. 平成21年度 年次報告(暫定版) のポイント

(1) 価格と品質による総合的な評価について

- ・ 調査件数1,732件中、技術点の最高得点者が落札した割合は76.6%であり、**技術競争が優位**な結果となった。
- ・ 価格点と技術点の比率について、技術点の比率が高くなるにつれて最低価格者が落札した割合が47.3%から27.8%に減少しており、**技術点の比率が高いほど技術競争が優位**な結果となった。
- ・ 落札率の分布状況について、価格のみの競争と比較すると、平均落札率が6ポイント高い。

(2) 低入札の状況について

- ・ 20年度と比較して21年度は特に**価格競争に比べて総合評価の低入落札発生率が低い**。
- ・ **総合評価の低入落札発生率は約1／2に激減(20年度:23.2%→21年度:12.0%)**している。

(3) 得点、業務成績の状況について

- ・ 技術点順位が**1位又は2位の者が約9割落札**している。落札者と総合評価点が2位、3位の技術評価点数を比較するとその平均の差約6点程度の中で競争しており、満点60点の中の**高いレベルで競争**が行われている。
- ・ 平成21年度の総合評価落札方式の成績評定点平均は75.2点となった。これは**価格競争よりも1.5点高い平均点**となっている。

2. 総合評価落札方式の実施状況

●建設コンサルタント業務等の契約状況(暫定値)

・平成21年度の建設コンサルタント業務等の発注件数は17,450件。

うち、総合評価落札方式は**3,397件(19.5%)**。対前年比で約9倍に急増。

地方整備局等(港湾空港除く)における契約状況(暫定値)

(件数)

	H19年度	H20年度	H21年度 (暫定値)	増減率 (H21-H20)/H20
価格競争	(51.5%) 8,910	(48.7%) 7,578	(45.1%) 7,865	4%
総合評価落札方式	(0.1%) 23	(2.5%) 381	(19.5%) 3,397	792%
プロポーザル方式	(29.5%) 5,112	(44.8%) 6,970	(34.1%) 5,954	▲15%
特命随意契約	(18.9%) 3,266	(4.0%) 619	(1.3%) 234	▲62%
計	(100%) 17,311	(100%) 15,548	(100%) 17,450	12%

※対象は北海道開発局および8地方整備局の業務

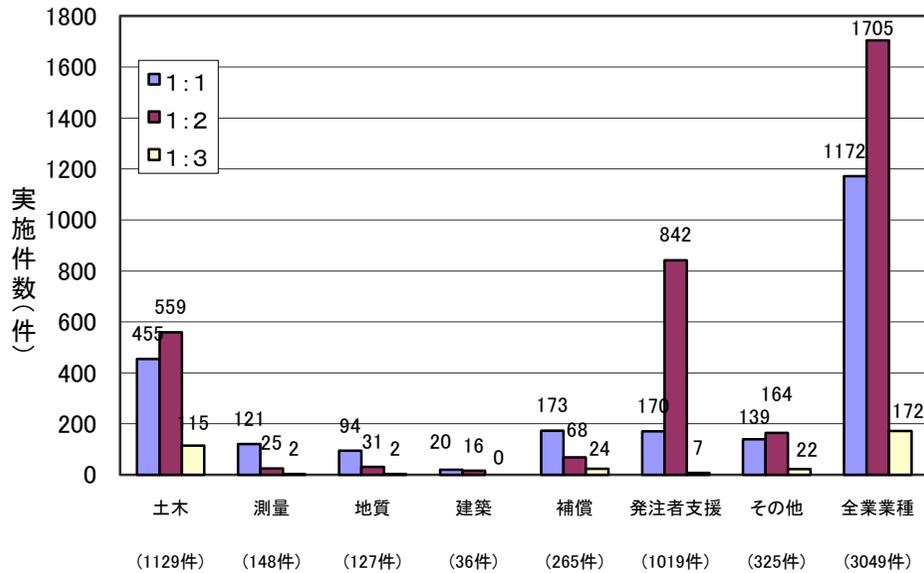
※5業種(土木、測量、地質調査、建築、補償)

※件数については現在精査中の暫定値であり、今後変更の可能性あり

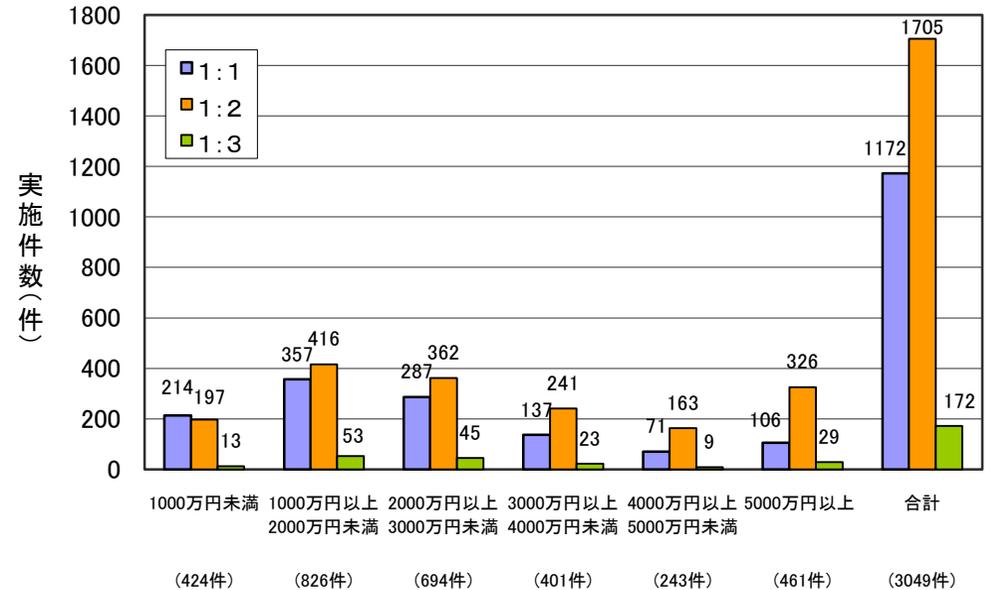
● 総合評価落札方式による契約状況

- ・業務内容別の全業種に占める割合は、土木37.0%、測量4.9%、地質調査4.2%、建築1.2%、補償8.7%、発注者支援33.4%、その他10.7%。
- ・価格帯の内訳では、1,000万円～2,000万円が3割弱を占め最も多く、4,000万円未満が**全体の8割弱**を占めている。
- ・配点比率別では、1:1が38%、1:2が56%、1:3が6%であり、**1:1と1:2両方で9割以上を占める。**

H21年度 総合評価落札方式 業種別の実施件数



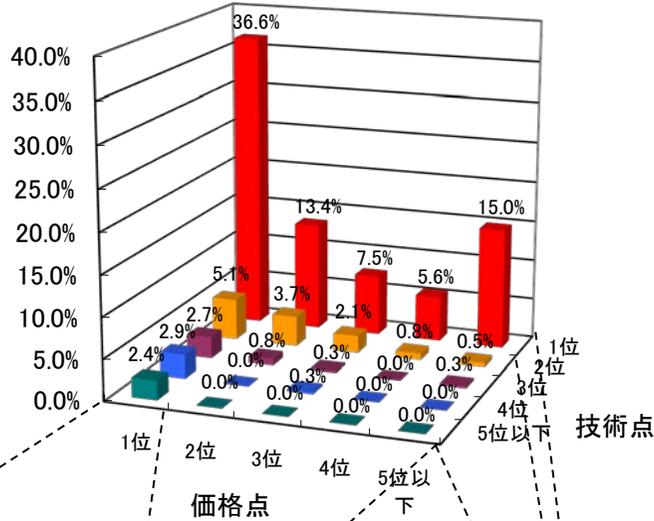
H21年度 総合評価落札方式 予定価格帯毎の実施件数



2-3. 落札者の状況(全体)

- ・全数データの集計が未確定のため、分析は主要業務である土木、測量、地質調査の3業種のみを対象として分析した(分析対象1,732件)
- ・最低価格者を含め、技術評価点の最高得点者が落札した割合(技術点1位)は**1,326件(76.6%)**であり、平成20年度に引き続き**技術評価点による競争が優位な結果**となっている。
- ・業種別にみると、技術点1位が落札した割合は75%前後であるが、**道路、地質分野においては、河川、測量分野と比較し、価格点が5位以下にもかかわらず落札した者が多い(道路19.8%、地質26.8%)**。

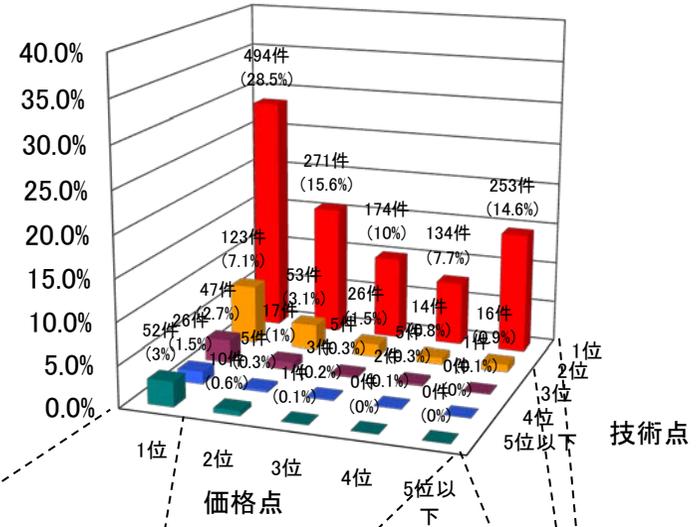
平成20年度 総合評価落札方式
落札者の内訳(全業務)



価格点1位	186件 (49.7%)
価格点1位以外	188件 (50.3%)
合計	374件

技術点1位	292件 (78.1%)
技術点1位以外	82件 (21.9%)
合計	374件

平成21年度 総合評価落札方式
落札者の内訳(3業種)

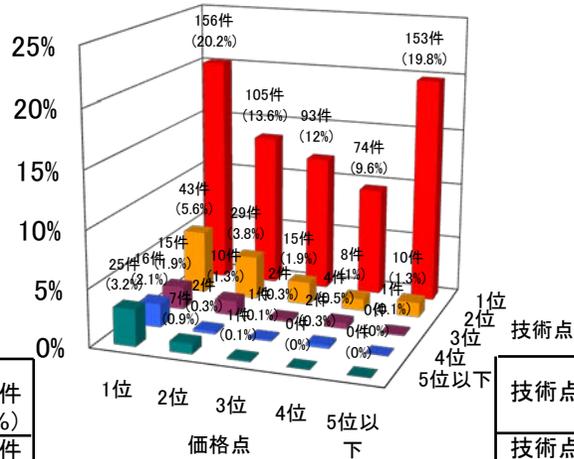


価格点1位	742件 (42.8%)
価格点1位以外	990件 (57.2%)
合計	1,732件

技術点1位	1,326件 (76.6%)
技術点1位以外	406件 (23.4%)
合計	1,732件

2-3. 落札者の状況(業種別)

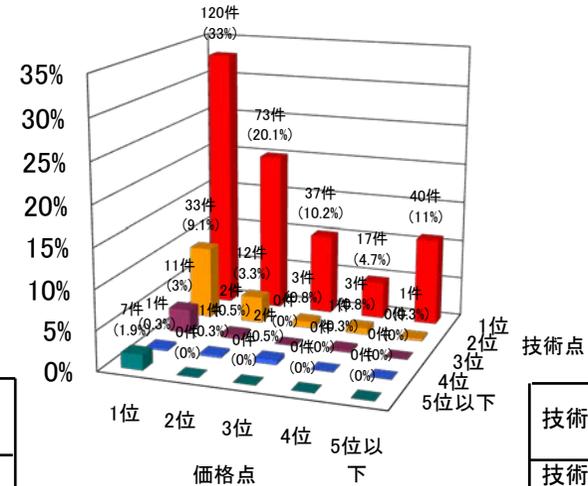
落札者の内訳(道路関係) 772件



価格点1位	255件 (33.0%)
価格点1位以外	517件 (67.0%)

技術点1位	581件 (75.3%)
技術点1位以外	191件 (24.7%)

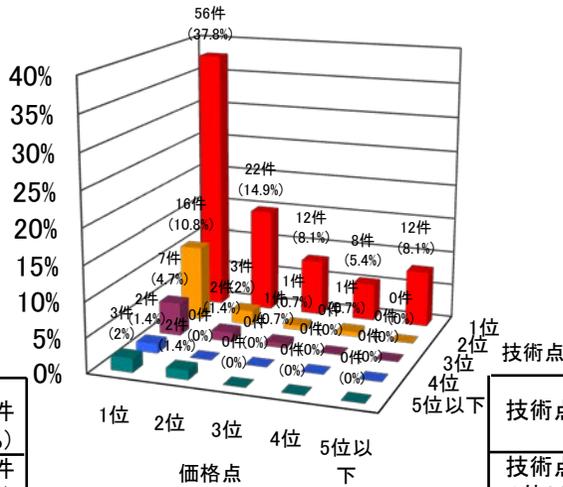
落札者の内訳(河川関係) 364件



価格点1位	172件 (47.3%)
価格点1位以外	192件 (52.7%)

技術点1位	287件 (78.8%)
技術点1位以外	77件 (21.2%)

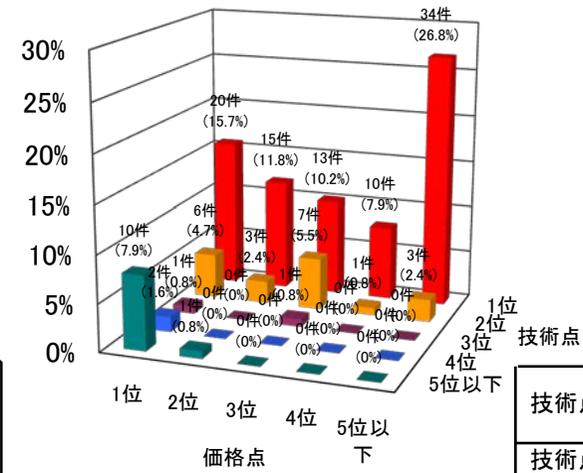
落札者の内訳(測量) 148件



価格点1位	84件 (56.8%)
価格点1位以外	64件 (43.2%)

技術点1位	110件 (74.3%)
技術点1位以外	38件 (25.7%)

落札者の内訳(地質) 127件

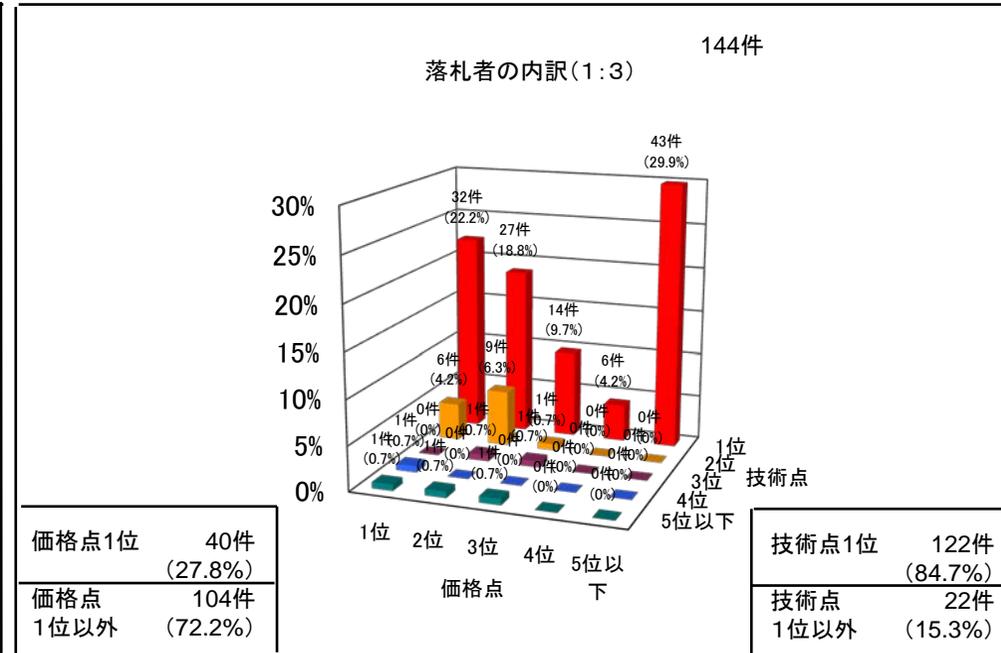
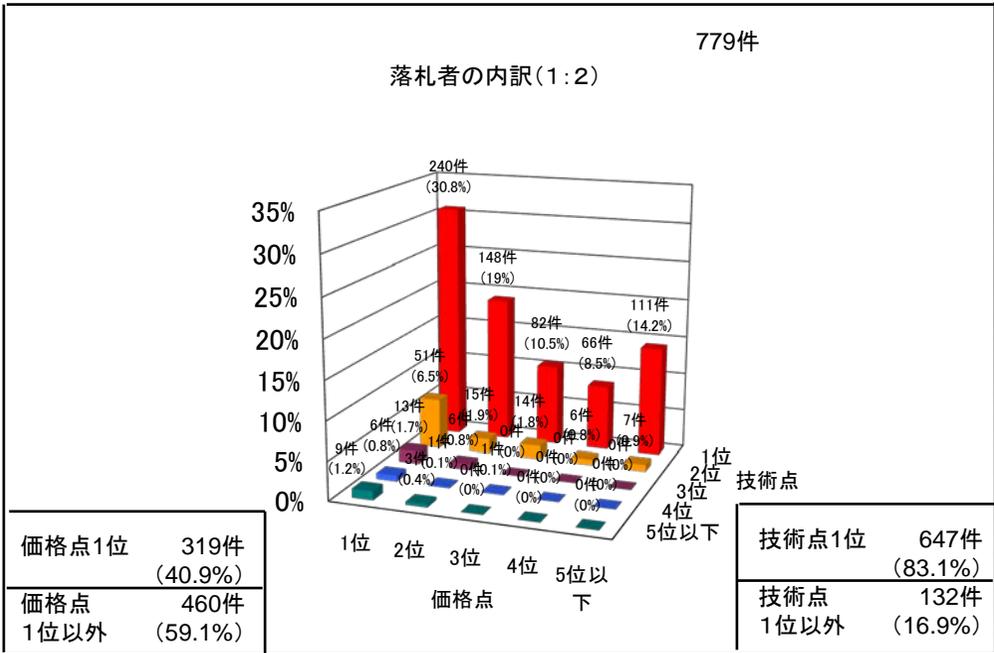
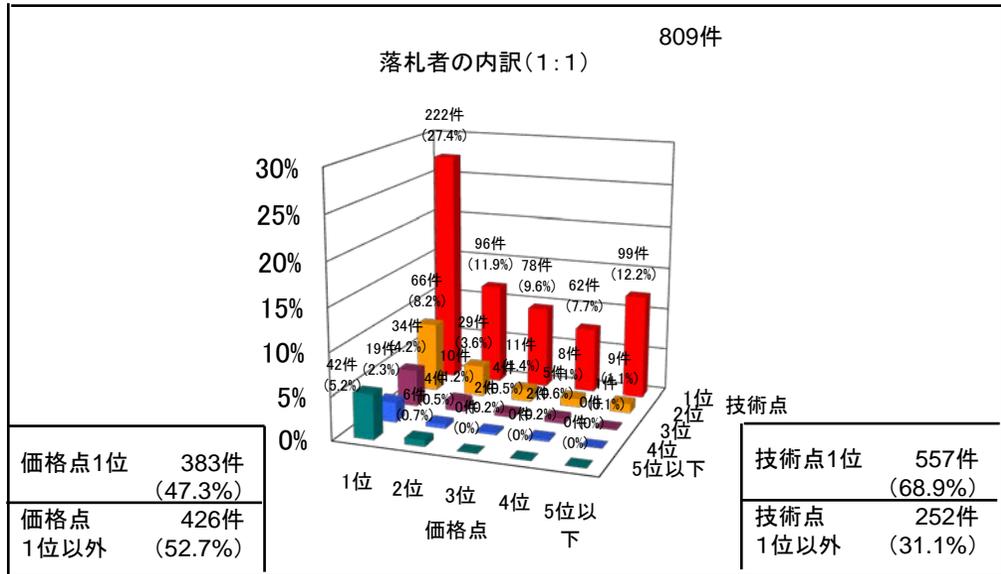


価格点1位	39件 (30.7%)
価格点1位以外	88件 (69.3%)

技術点1位	92件 (72.4%)
技術点1位以外	35件 (27.6%)

2-3. 落札者の状況(比率別)

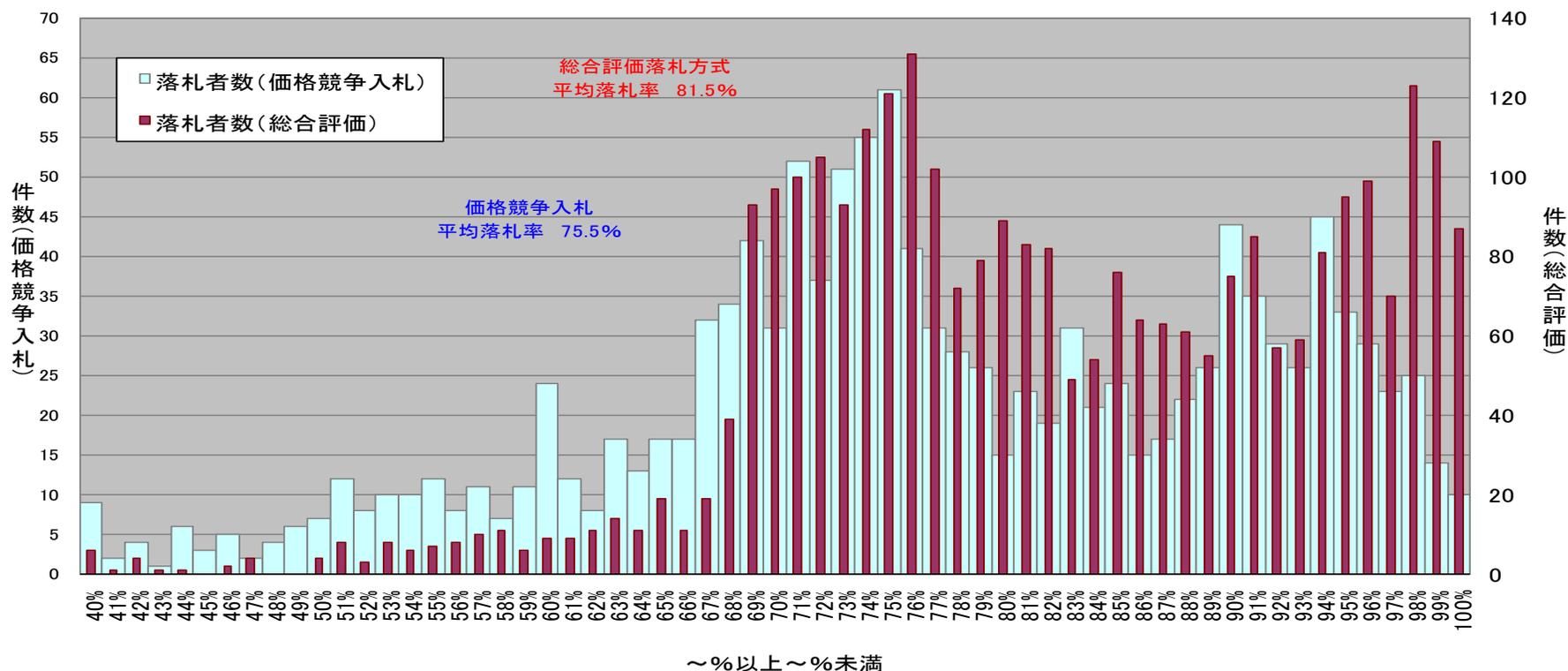
- ・全比率において、**技術点1位の者は65%以上で、1:2と1:3では8割を超える。**
- ・技術点の割合が高くなると、**最低価格者(価格評価点1位)**が落札した割合は、47.3%から**27.8%に減少している。**



●価格競争と総合評価落札方式との比較(1,000万円以上の総合評価2,953件と価格競争1,263件との比較)

・平均落札率は、総合評価落札方式(81.5%)のほうが価格競争方式(75.5%)と比較して**6.0ポイント高い**。

H21年度 総合評価落札方式 落札率分布(全業種)

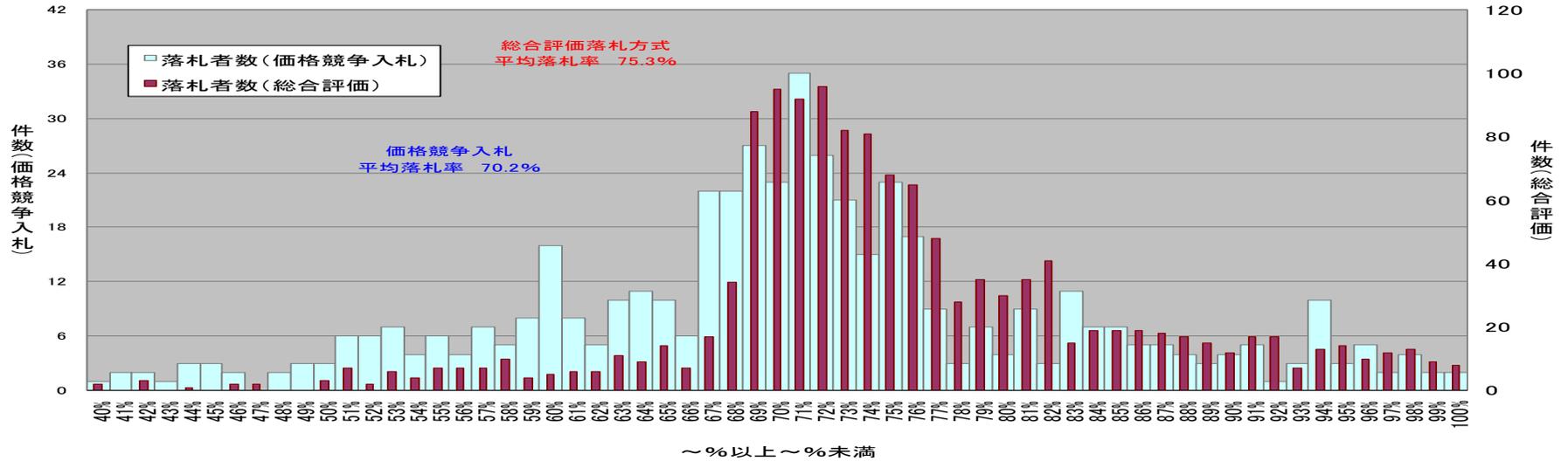


※全業種:空港・港湾を除く、土木、測量、地質、建築、補償の5業種

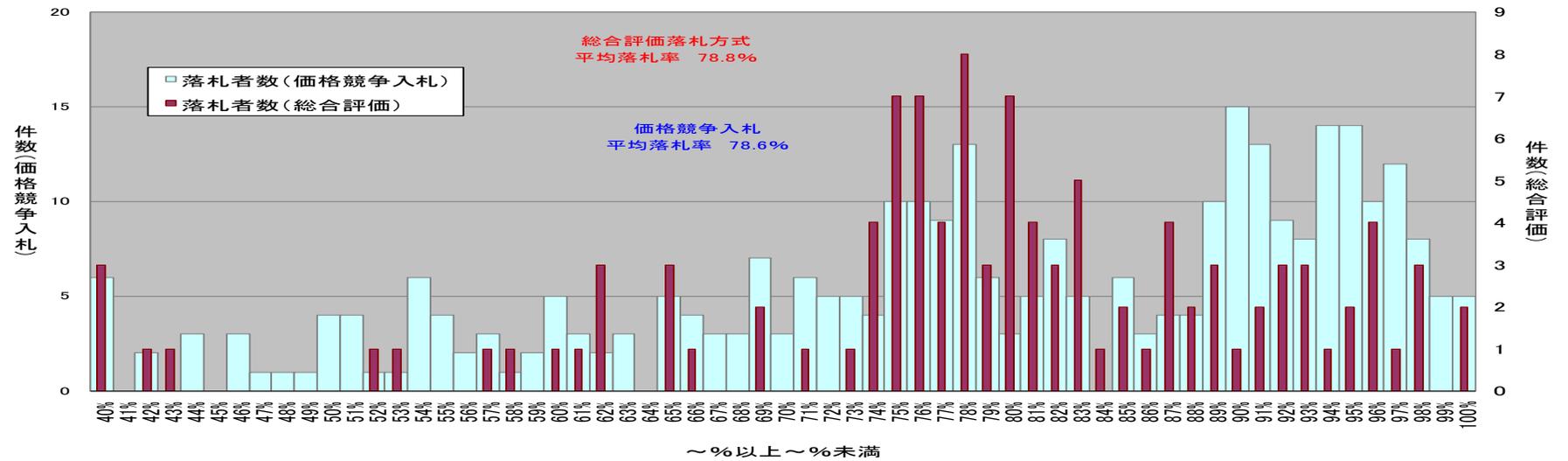
※価格競争:簡易公募・公募型、予定価格1000万円以上

2-4. 落札率の分布状況（土木及び測量）

H21年度 総合評価落札方式 落札率分布(土木)



H21年度 総合評価落札方式 落札率分布(測量)

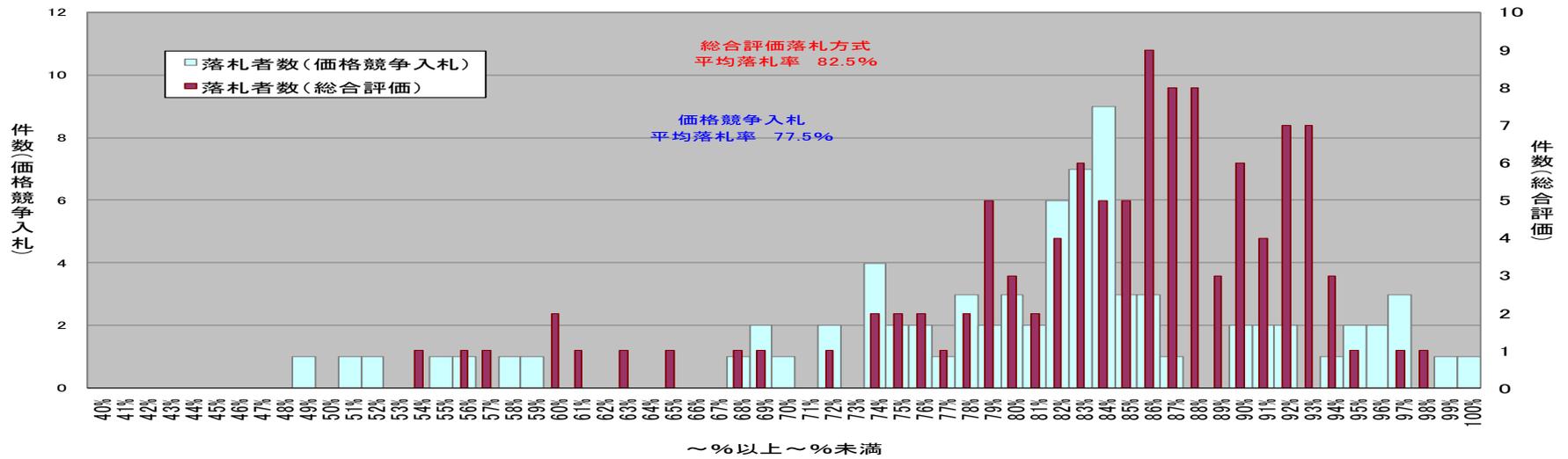


※土木、測量、地質は発注者支援を除く。

※価格競争:簡易公募・公募型、予定価格1000万円以上

2-4. 落札率の分布状況（地質）

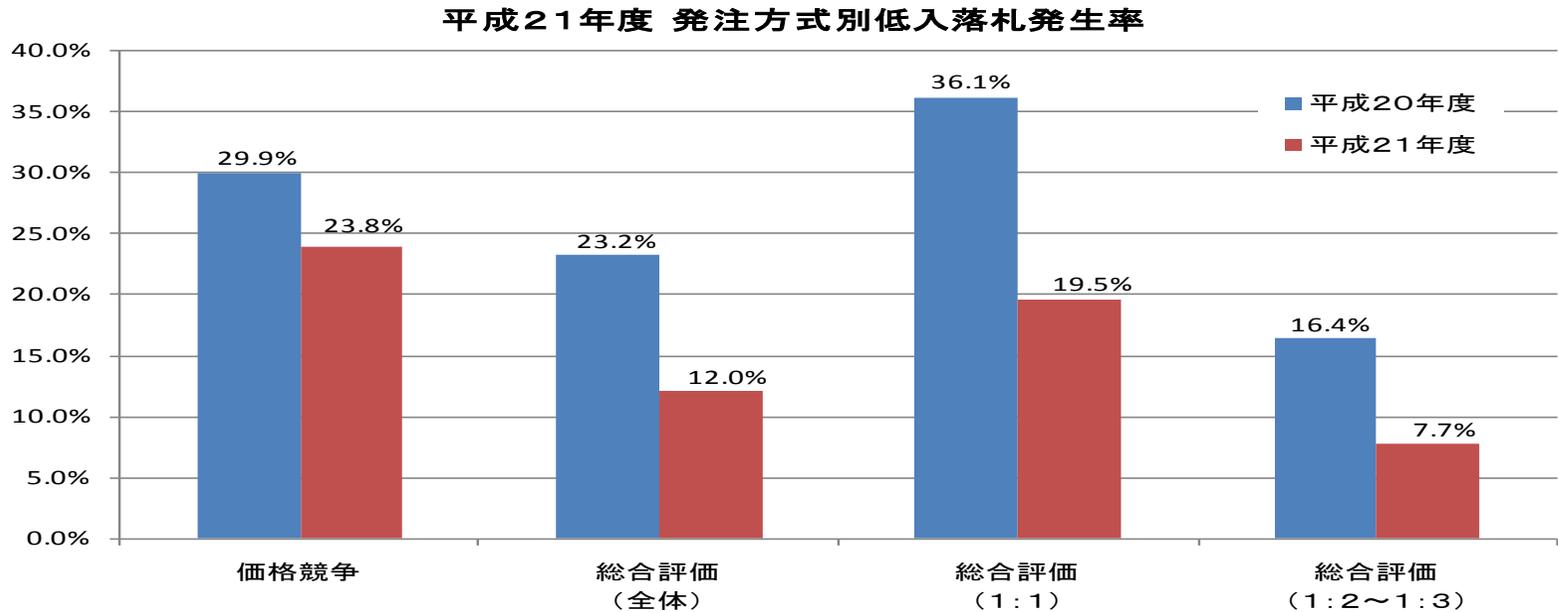
H21年度 総合評価落札方式 落札率分布(地質)



※土木、測量、地質は発注者支援を除く。

※価格競争:簡易公募・公募型、予定価格1000万円以上

- ・20年度と比較して21年度は特に価格競争に比べて総合評価(全体)の低入落札発生率が低い。
- ・総合評価の低入落札発生率は約1/2に激減(20年度:23.2%→21年度:12.0%)している。



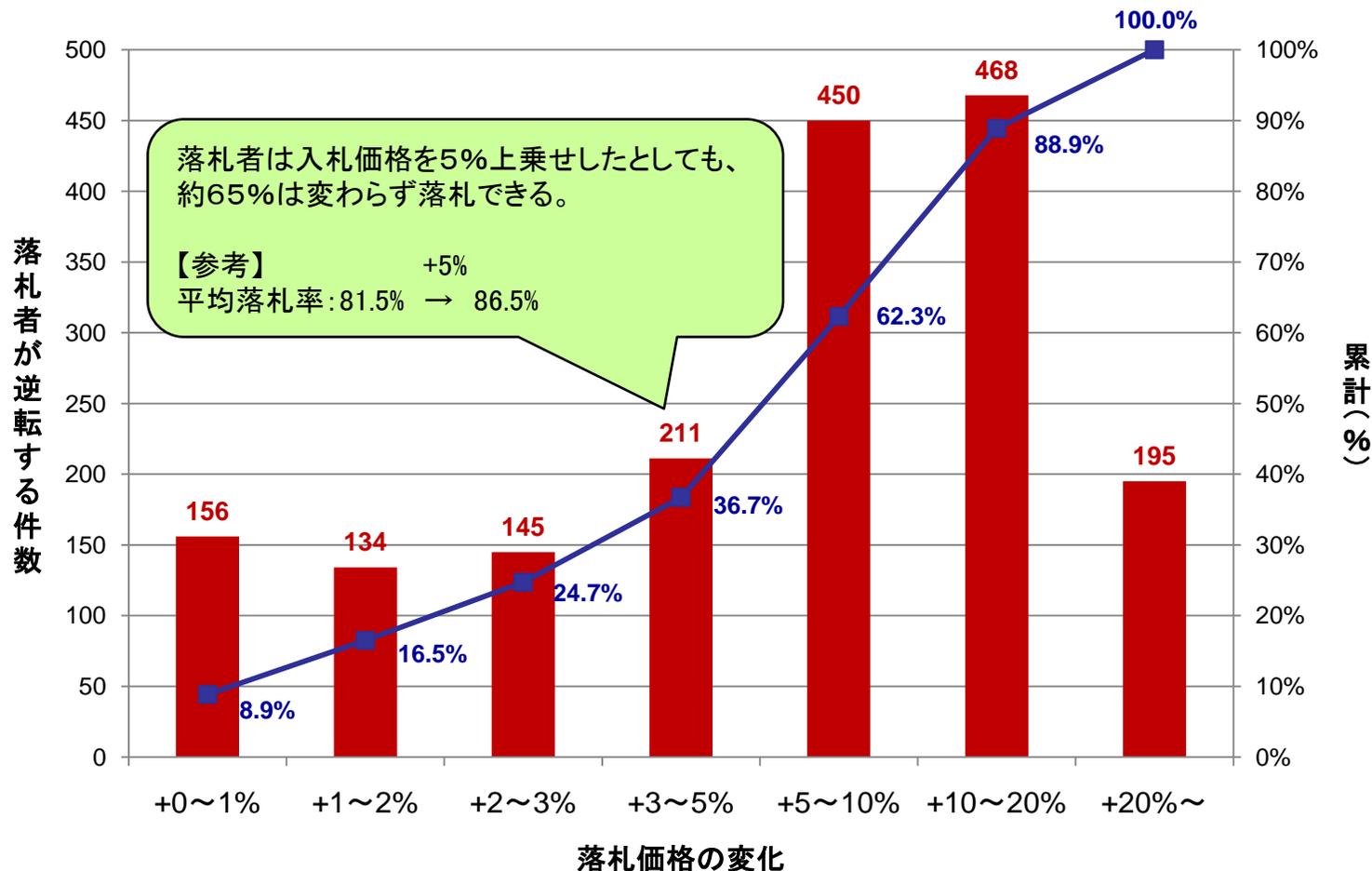
H21	対象業務件数	3,864件	2,590件	949件	1,641件
	低入落札件数	921件	312件	185件	127件
H20	対象業務件数	4,356件	280件	97件	183件
	低入落札件数	1,301件	65件	35件	30件

※件数については現在精査中の暫定値であり、今後変更の可能性あり

【参考】落札者と2位が逆転する価格

- 平成21年度に実施された総合評価落札方式のうち3業種(土木、測量、地質の1,759件)において総合評価1位で落札した者が、応札価格に何%上乗せしたら総合評価2位の者に逆転されていたかシミュレーションを行った。
- この結果、5%上乗せした場合に逆転される率は全体の約35%であり、約65%は落札者は変わらない。

総合評価落札方式における応札価格と落札者の変更の関係



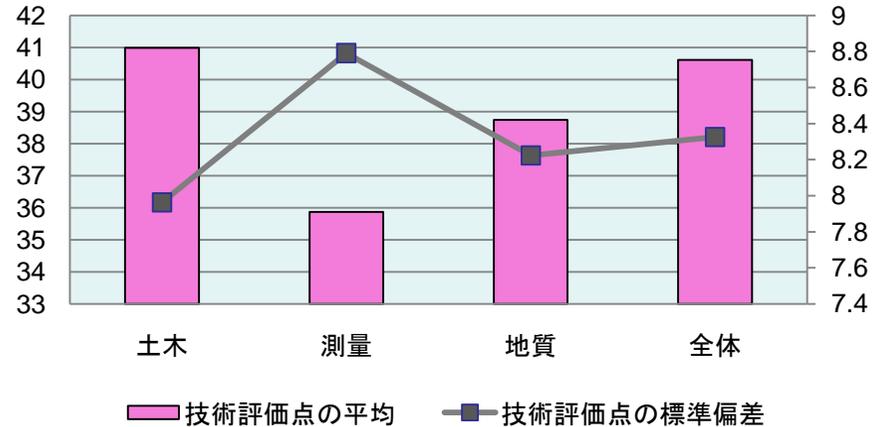
※ 建設コンサルタント業務(土木、測量、地質調査)が対象。建築、補償、港湾、空港分は除く。
 ※ 2者以上の応札があった業務を対象

以下の項目は、次回以降報告予定。

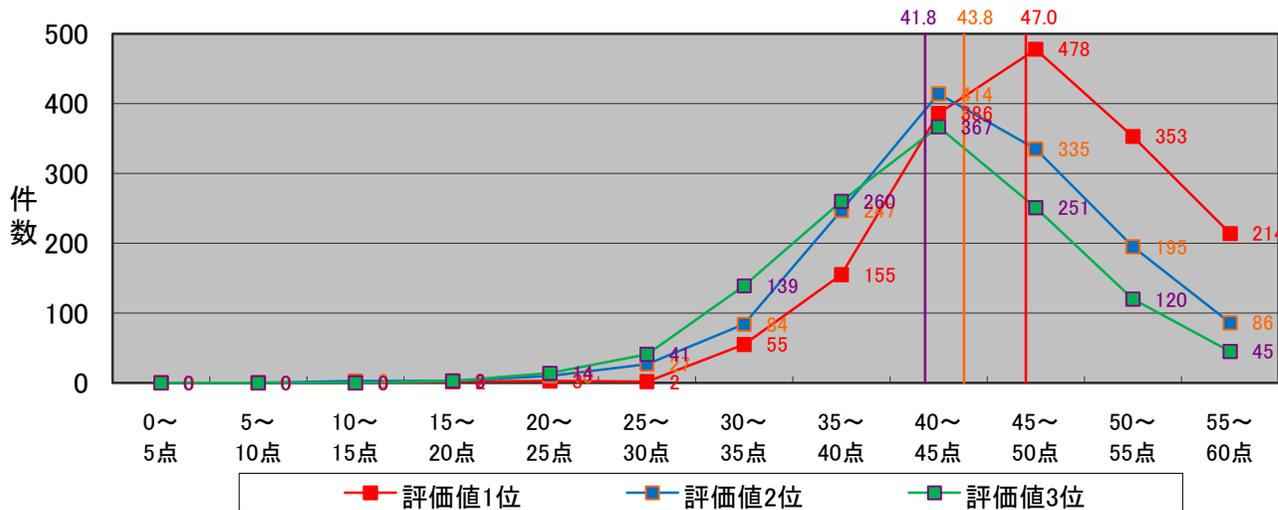
- ・評価項目毎の採用状況
- ・評価テーマの設定状況
- ・評価項目毎の得点率

- ・技術点順位が1位又は2位の者が約9割の業務で落札しており、**高いレベルで競争が行われている。** (右下図)
- ・落札者と評価値(評価点)が2位、3位の点数を比較すると、その差はそれぞれ3.2点、5.2点となっており、60点満点**全体の1割程度の中で3者の競争が行われている。**(左下図)

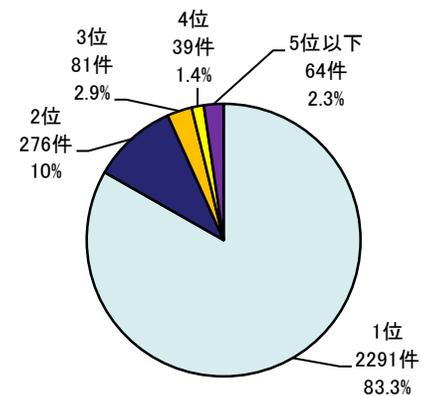
全応募者の技術点:
平均(棒グラフ左軸)と標準偏差(折れ線右軸)



H21年度 総合評価落札方式
総合評価値1位~3位の技術点の分布と平均点(全業種) 上位3位までの平均 44.4



落札者技術評価点順位 (2,751件)

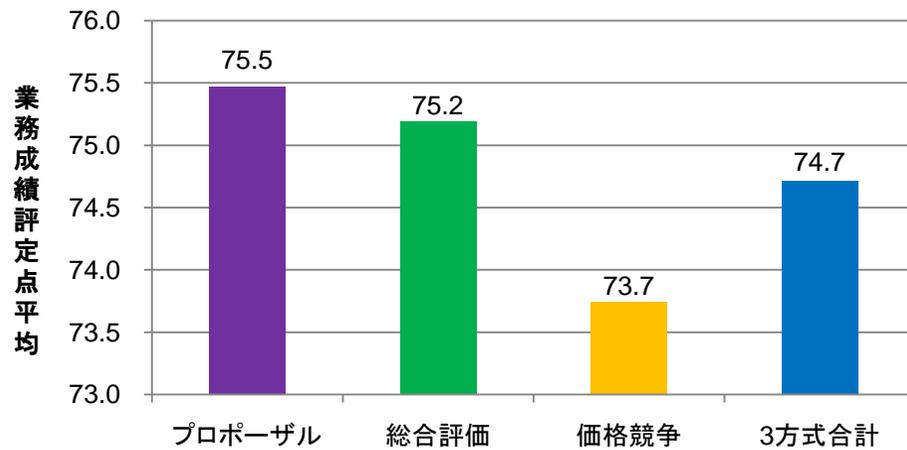


1位と2位の合計
2,567件(93%)

- ・平成21年度の総合評価落札方式の成績評定点平均は 75.2点となった。これは**価格競争よりも1.5点高い得点**となっている。
- ・また、成績評定点は技術点の比率が高いほど良くなる傾向があり、**成績評定点平均で1:3の業務(75.7点)が1:1の業務(74.8点)よりも0.9点高い。**

(総合評価の分析対象はH21年度に8地整+北海道開発局が発注した土木コン、測量、地質調査、建築、補償業務で、成績評定データとマッチングできた業務、ただし、空港、港湾を除く。 N=13,969件)

調達方式別評定点平均(3業種)



価格点:技術点比率別評定点平均(3業種)

